

都道府県番号	37
都道府県名	香川県

【 】

学校名及び規模（平成16年1月現在）

学校名	高松市立川岡小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	2	2	2	2	11	17
児童数	36	19	40	48	46	50	6	245	

研究の概要

(1) 研究主題

個が輝く学校づくり ～学び合う楽しさを求め 自己学習力の育成を図る～

(2) 研究主題設定の趣旨

学校にはたくさんの子どもたちが集まってきている。同じ年齢の子もいれば異年齢の子もいる集団である。そして、プロの教職員が集まっている。こうした環境のなかでは、一人ひとりの子が、「自分を知り、自分のよさや可能性を磨く」ことができる条件が整っている。

そこで、個がもつ知識や技能を発揮して活動することができれば、「個が輝く」はずである。子どもの生活において、学びあり、遊びあり、そして楽しさ、潤いのある学習環境が整っていれば、一人ひとりが生き生きと活動し、ともに生きる力を培うことができると考える。

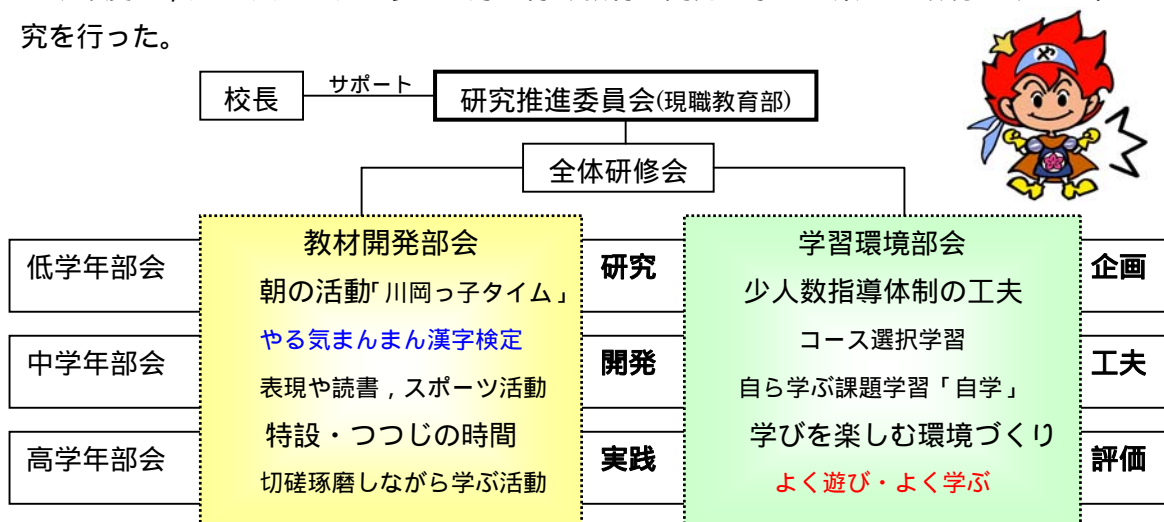
そのために、子どもが学びの教材を創ったり、友達と学び合ったりする学習環境をコーディネートした。

自分の得意なことや課題を知ることで、自分に合う学習方法を見つけ、自己学習（自学・宿題）への意欲を高める。また、よさを生かすことで成就感や貢献感を味わいながら、自己を肯定的に見る力を高める。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

今年度は、知らず知らずのうちに身に付く教材の開発と学びを楽しむ環境づくりを中心に研究を行った。



(2) 研究の実際

- ・自ら学ぶ学習のための教材開発と指導体制の整備
- ・特設「つつじの時間」 例：よく遊びよく学ぶ教材の開発と実践

特設「つつじの時間」…週中日の5校時

学年の発達や実態に応じて、競争したり切磋琢磨したりしながら、学びを楽しむ時間を特設した。ここでは、他者からの評価を気にせず、友達とじっくり学び合うなかで、「知らず知らずのうちに学びの力」を付けることが主なねらいである。また、集団の中で、飽きずに繰り返し学習ができるように、ゲーム的な要素を入れる。そして、学年が上がるにつれて、自ら学びを創り出す、教材づくりの喜びも獲得させる。

「つつじ」は児童や保護者のアンケートによって、川岡の町にふさわしい木に選ばれました。つつじのように、みんなが一緒に美しい花を開かせるために取り組む時間にしたいという願いが込められています。

例 1年…かん字をつくろう

3年…「重さ大名人」すごろく

5年…分数カードゲーム



朝の時間「川岡っ子タイム」…朝の15分間

学習の基礎となり、子どもたちが意欲的・主体的に取り組んでいけるような内容(スポーツ、漢字検定、読書、表現活動)を計画する。

学習状況調査の結果、本校の児童に身に付けなければならない力の一つが漢字の力であった。自作の漢字検定を開発・工夫することで、単に漢字を覚えるだけでなく、熟語として、生活に使える使い方などを自ら見つけ出せるような指導体制を開発する。こうした教材によって、書く力の定着と自らの課題を見つけ自ら学ぶ方法を見つげ出す力の育成を図る。

例 漢字やる気まんまん検定(10級・100コース)

漢字やるきまんまん検定					
級	1	2	3	4	5
1級	6	7	8	9	10
2級	1	2	3	4	5
3級	6	7	8	9	10
4級	1	2	3	4	5
5級	6	7	8	9	10

「漢字検定の日」に向けて日々練習し、合格を目指す。日常生活や学習活動のなかに進んで漢字を使う態度を育てる。

(3) 研究の成果と課題

ア. 集団での知のつくり方の研究

学校は子どもたちの「学びの社会」である。そこで、学校でしかできない集団での知のつくり、みんながやっているから自分も辛抱してやれる。そんな環境づくりを開発工夫することができた。

イ. 集団で切磋琢磨する学習環境の設定

学校は、多様な個性やよさをもつ子どもの集まりである。その集団のなかで、自分のよさを十分に発揮し、様々な活動に挑戦して、自分のよさや可能性を磨く環境をつくることができた。

ウ. 支え合い認め合う学習スタイルの開発

学級では、自分の得意・よさを生かして係「教科スタッフ」の活動を展開している。復習や予習の問題を作ったり、教え合ったりする活動を展開する。また、異学年ペア活動にも、自分のよさや技能を生かして「出前授業」を展開するシステムづくりを行った。 例：出前授業

今年度は、学校という集団でないと効果がでないものに目を向け、みんながいるから一緒に

頑張れる「集団での知のつくり方」、集団のなかで「切磋琢磨する学習環境づくり」、支え合い認め合う「学習のスタイル」の開発研究を中心にしてきた。これまでに、指導体制づくりや学びの環境づくりはほぼ整ってきたので、今後は、このシステムで効果の出ない子、気になる子への支援体制づくり及び、自ら課題を追求できる子をさらに伸ばす指導体制の整備が緊急の課題である。

(4) 研究成果の普及の方策

今年度は、次のような形で研究成果の普及を図った。

ア．指導体制や研究内容の説明

保護者への説明(4月)をする。

地域・保護者への具体的な説明(7月)を体育館でする。

学校だより(年間6回)で、中間報告や活動の様子を報告する。

イ．授業実践の公開

各学年1回以上、少人数授業を公開した。それとともに、授業のねらいや成果等についても説明した。それ以外にも、

香川県小学校教育研究会高松支部の研究会を開き、授業実践と研究内容を公開した。

平成16年1月22日(木) 高松市立川岡小学校

ウ．研究内容の照会とポスターセッション

東讃地区協議会での説明 7月31日(水) 三木町交流文化プラザ

学校改善研究事業 12月25日(木) 綾歌町アイレックス

東讃地区協議会での説明 2月10日(火) 牟礼町公民館 で行った。

今年度も、様々な機会をとらえて、授業公開及び取組に対する説明(ポスターセッションなど)を行ってきた。その度に、研究の内容を紹介しながら成果と課題を検証することができた。また、多くの方から参考になる意見をもらうことができた。これらの成果をまとめて、今後もホームページに学力向上プログラムの取組、成果などを掲載する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | |
|----------------------|---|--|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |
| 【学校規模】 | 6学級以下 | <input checked="" type="checkbox"/> 7~12学級 |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導 |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | 社会 <input checked="" type="checkbox"/> 算数 <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | <input checked="" type="radio"/> 無 |
-

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

研究の構想がしっかり生まれ、組織全体が活性化し、取組みの効果が顕著に現れている。子どもが楽しくなる活動やよく分かるような教材資料の準備・蓄積がよくできており、取組みや成果が他校からも学びやすくまとめられている。基礎的・基本的な内容の確実な定着のための研究開発が子どもの目線でできているだけでなく、支えあい認め合う学習スタイルの開発にも取り組み、学びの力を子どもたちが身に付けてきている。